

# ろくおん 通信

## No. 7 2号

新・盲人福祉センター1995年4月15日

「音声訳」を考える（第23回）

## 録音の順序と各ポイント その10



### 15. B面の終わり

注意1：区切りのつけ方は面が変わる時よりも慎重に。少々テープがあまってもよい。区切りのよい所で次巻に移る。

注意2：A面より長く録音しないこと。最低10秒以上は短く録音する。

### 16. 2巻目以降のA面・B面のはじめ→“14. B面のはじめ”に同じ。

### 17. あとがき

注意1：あとがきの前に、長い年表などがある場合はあとがきを先に読む場合もある。

### 18. 解説、参考資料、年表、索引、刊行のことば、など

☆順序が前後したり、録音図書凡例で断って省略する場合もある。

### 19. 著者の既刊作品の掲載

注意1：著者の既刊作品を読む場合は以下の断りをアレンジして入れる。

例→「以下のリスト（作品）は、〇〇〇〇社より発刊されている〇〇〇〇（著者名）の作品です。」

### 20. テープ最終巻の末尾

最終巻の末尾のコメント

「以上で、〇〇〇（シイズ名）、〇〇〇著、〇〇〇（書名）〇〇〇（副書名）テープ全〇巻を終わります。製作完了19〇〇年〇〇月〇〇日。音声訳〇〇〇〇、校正〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇（マスター校正者名）、編集〇〇〇〇。

このあとには何も録音してありません。早送り（又は巻き戻し）で最後まで巻き取ってからテープを取り出して下さい。」

注意1：A面の途中とB面の途中で終る場合の粋アナウンスの違いに注意すること。

◎A面途中……「巻戻しで最後まで巻き取ってからテープを取り出して下さい。」

◎B面途中……「早送りで最後まで巻き取ってからテープを取り出して下さい。」

#### ◆チェックポイント

☆第二校正者は、シリーズ名、著者名、書名、副書名が第1巻A面はじめと同じであることに注意。

☆マスター校正者はそれに加えて、全〇巻、製作年月日、音声訳者名、校正者（3名）編集者名のコメントに注意。

- ・全巻数コメント、製作年、各氏名は、第1巻A面と同じであること。
- ・マスター校正者名は最終巻に入れるが、自分の名前が校正者名に入っているかも確認。もれていたら指示する。

☆最終粋アナウンスのA面途中とB面途中の違いに注意すること。（巻戻しか、早送りか）

第1巻目に全巻数を予想してコメントする為、1巻目の全〇巻のコメントが実際の巻数と違うことがあります。この数字が違っていると混乱のもとになりますので注意しましょう。カセットテープには点字で表示していますが、利用者は点字が読めるとは限りません。全巻数をコメントすることで全部そろっているかどうかわかります。折角、最初に配慮したコメントで間違いをしないようにしましょう。このチェックは、マスター校正でよく出されますが、まずは音声訳者自身が最初のコメントが正しかったかどうかを確認し、違っていたら訂正し、編集者に訂正依頼をしましょう。

つづく

#### ----- 前回練習問題のポイント -----

例1では、「トスイツクトモ」は、「トネガワの水が枯れても・・・」との説明があります。問題は、字が違うので、説明するかしないかで迷われる方もあるでしょうが、ここでは漢字の違いを取り上げているわけではないので、漢字の説明を入れる必要はないでしょう。仮に漢字の説明を入れると「刀」

と「利」の字の違いが問題になっているかのような混乱を読者に起こさせることにもなります。

例2 これも例1と同様、「カネ」の表記はそれぞれ違いますが、それを問題にしているわけではありませんので、説明はいらないでしょう。説明すれば著者の意図が表記（書き方）を問題にしているかのようにとられかねません。

例3 この例文は、中国語で書かれた小説を翻訳したもので日本と中国の漢字の違いを会話の中に挿入していました。実際にこの〔 〕の中を読み込むと、非常にややこしい会話になり、何を問題にしているのか読者は混乱してしまいます。この場合も、漢字の違いを本来問題にしていらないので省略して読んでもよいでしょう。仮に漢字の違いを説明するとしたら、会話の流れの妨げにならないように、補足を入れながら読む必要があるでしょう。

例4 ここでは、「ㄣ」の読み方でしょう。この読みは「レンガ」とか「ヒヘン」ですが、そのまま「レンガはズバリ・・・」と読んでも分かりません。読者には「ㄣ」＝「レンガ・ひへん」と結びつかないからです。「ㄣ」は、「ホウノ字の脚の四つの点は、ズバリ、火を・・・」とか、「ホウの字の脚、レンガは、ズバリ、火を・・・」などと補足が必要でしょう。

例5 ここでの問題は、カッコの処理と、漢字に振られたルビの処理が問題です。パライメイ（死ぬ）しなくてもものところは、（）内を読んで戻らないと分かり難いでしょう。後の、「・・・身勢（身の上）」は、「読み方＝テクニック」で戻らなくてもわかるように読む方法やカッコを読む方法もあるでしょう。「氷下魚<sup>かんかい</sup>」は、辞書にもない言葉で「カンカイ」だけでは何のイメージも湧きませんが、「カンカイ」が、「氷・下・魚」と書く言葉であることを補足すれば、何となくイメージできます。これはあれこれ解釈されるから漢字の補足をするというケースではなく、固有名詞などで字を補足すればイメージが深まるような場合の例にあたるでしょう。補足をするとしたら、

例1. ...氷下魚<sup>かんかい</sup>みたいにさ。カンカイハ、コオリ、シタ、サカナ、  
「うん」・・・

例2. ...氷下魚<sup>かんかい</sup>、コオリ、シタ、サカナ、カンカイ、みたいにさ。  
「うん」・・・

二通りの読みがあって意味が異なるもの・・・(32)

苦汁	クジュ 苦い汁。転じて苦しみ、苦い経験。 ニカリ 海水を製塩した後に残る母液。	若気	ワカゲ 年若い頃のはやり気 又、無分別 ニヤ 若衆。男子の色めいた姿をしたさま。にやけ
和物	ワモノ 和製品 ニキモノ やわらかい物	毒性	ドクショウ 意地の悪いこと。 ドクセイ 毒の成分。毒の性質
先様	サキマ 先方の敬称 センサマ 先にきた客。先客	男女	ダンゾウ 男と女 「女デアリガウ男のヨナ オコオナ 男デアリガウ女ノヨナ」

ことばQ & A <「NHKことばのハンドブック」より>

「大」の付く語の読み



**Q** 「大地震」の読みは「ダイジシン」か。一般に「大」の付く語の「大」の読みに決まりはあるのか。

**A** 接頭語の「大」の付く言葉で、「ダイ」か、「オー」かで迷うことがよくあるが、「大地震」の場合は、正しくは「オオジシン」である。もっとも、NHKの放送文化研究所が平成元年に実施した第3回言語環境調査によると、「大地震」については77%の人が「ダイジシン」と言っている。つまり「大地震」の読みの伝統は伝統として、実際には、「ダイ」か「オー」かでゆれがあり、調査結果から見る限りでは、しだいに「ダイ」という人が増えているということが言える。

「大地震」の場合、なぜ「ダイ」という人が多いのか。おそらく、「震災」「災害」に「大」が付く場合、「ダイシンサイ」「ダイサイガイ」になることと関連があるのだろう。「地震」ということばは、かつては「雷」「火事」と並ぶ日常的な“準”大和ことばだった。それが先

祖返りして漢語並みになってきたらしい。

そこで、一般的な「ダイ」「オー」の読みの決まりがあるが、原則として、「大」の後に「漢語」（音読みの語）がくると「ダイ」、「和語」（訓読みの語）がくると「オー」だとされている。）

### 「ダイ」と読むことば

大悪党 大英断 大遠忌 大音声 大恩人 大回転 大学者 大家族  
 大合唱 大企業 大規模 大休止 大群衆 大洪水 大好物 大極殿  
 大混乱 大罪人 大惨事 大賛成 大事件 大勝利 大動脈 大打撃  
 大惑星 大発会

### 「オー」と読むことば

大商い 大当たり 大暴れ 大荒れ 大いちょう（銀杏） 大威張り  
 大入り袋 大海原 大売り出し 大親分 大金持ち 大切り 大津波  
 大年増 大広間 大部屋

ただし、次の例は、「大」が漢語（音読みの語）の前にきているが、従来、慣用的に「オー」と読むことになっている。

大一番 大火星 大げさ 大喧嘩 大御所 大散財 大地震 大時代  
 大所帯 大掃除 大騒動 大道具 大入道 大番頭 大舞台

「ダイ」と「オー」については、以上のような読みの決まりがあるが、「大地震」に関連して述べたように、最後のグループのことばを中心に、いくつか読みのゆれが見られる。

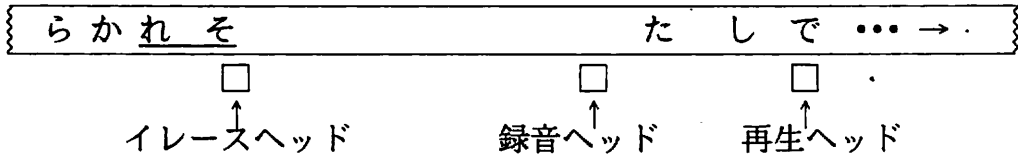
たとえば、「大舞台」である。辞典によれば、読みは「オーブタイ」であるが、甲子園での高校野球の放送を聞いていると、『甲子園というこの「ダイブタイ」で……』などと言っている。放送文化研究所が昭和63年度に行った元番組モニター100人を対象にした調査でも、「ダイ～」という人が60%を超えていた。

このように「大地震」「大舞台」「大時代」の「大」を「ダイ」と読む人が増えているという現象は、これらの言葉の語感が、本来の漢語的なものに戻りつつあることを示しているのだと言え、なかなか興味をひかれるものがある。



うとしている「それから」以降は、イレースヘッドの手前にあり消えます。ここでは仮に2音手前で、としましたが機種によって様々です。もし、3ヘッドの録音機をお持ちの方であれば、自分の録音機はどれくらい手前で録音状態にしたら良いかを判断する必要があります。何度か練習して見れば、どれくらい手前で録音状態にしたらよいかはわかるはずです。

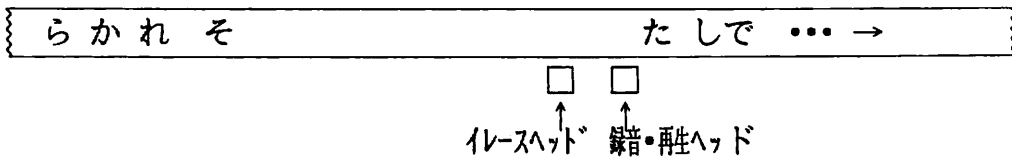
図2 「でした」の「で」を聞いて録音した場合



### 2ヘッドの場合の録音

図3は、2ヘッドの場合の例です。図1・図2、と比べて、イレースヘッドが極端の近づいています。これは、図1、図2はソニーのカセットデンスケ)をモデルにし、図3はソニーのカセットデッキ (RXシリーズ)をモデルにしています。デンスケの方は再生ヘッドとイレースヘッドの間隔はおよそ4cm、一方、カセットデッキの方は録音・再生ヘッドは一体になっており、イレースヘッドとの間隔はおよそ5mmとなっています。この違いを図1・図2と図3とで比較してみたものです。2ヘッドの方が訂正などが楽であることがおわかりいただけると思います。デンスケなどと比べて消え残りなどが少なくなるのは、再生ヘッドとイレースヘッドとの間隔が非常に小さいからです。

図3



## リクエスト図書一覧

以下のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。  
グループの方で引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。

- 『タイム・パトロール／時間線の迷路』上 ホール・アンダーソン著 <小説>  
『死体農場』P. コーンウェル著 <小説>  
『栗田式新・指回し健康体操』 栗田昌裕著 <医学>

引き受けて頂いた原本	グループ
『小児のノイローゼ』	えくてもあ
『審判失格』	えくてもあ
『ザ・レッドホースマン下』	えくてもあ
『心の挑戦』 大川隆法著 <宗教>	えくてもあ
『創価学会亡国論』 幸福の科学広報局編	えくてもあ
『店頭株投資情報』 小川益宏責任編集<金融>	えくてもあ
『証券会社に行く前に読む「株」入門』	えくてもあ
『死と生命の神学的考察』 東京神学大学神学会	えくてもあ
『日月神示 神一厘のシナリオ』 中矢伸一著	ICCBリクエストグループ

## お知らせ

### 『ろくおん通信』の更新について

95年度も引き続き、『ろくおん通信』を希望されるグループは、同封の申込用紙にご記入のうえ、盲人情報文化センター録音製作係までお送り下さい。お申し込みのなかったグループへは、5月号からは発送をストップさせていただきますので悪しからずご了承下さい。